

いごいのみぎわ
天路歷程 ジョン・パニヤン

第50話

2022年10月30日～11月5日 各家庭でのディボーション用テキスト

基督者 そうでしたか。あなたの罪を再び思い起こさせるものは何でしたか。

有望者 いろいろな事です。たとえば、

1. 善良な人と街路で会った時とか、
2. だれかが聖書を読むのを聞いた時とか、
3. 頭が痛んできた時とか、
4. だれか近所の人が病気だと聞いた時とか、
5. 死んだ人のために弔いの鐘が鳴るのを聞いた時とか、
6. 自分が死ぬと思った時とか、
7. 他人の身に突然死が起こったと聞いた時とか、
8. とりわけ、自分は速やかにさばきを受けねばならぬと考えた時です。

基督者 このうちどれかの仕方で罪の自覚が心に浮かんだ時、いつでもたやすくそれを払いのけることができましたか。

有望者 いいえ、心底ではとても。それらがそのころは良心を一層しっかりと掴んでいたからです。その時罪に戻ろうかと考えただけで（私の心は罪に反対していたのですが）、二重の責苦でした。

基督者 そんな時はどうしましたか。

有望者 自分の生活を改めねばならぬと考えました。さもなければきっと地獄に落ちるだろうと考えたからです。

基督者 それで改めようと努力したのですか。

有望者 そうです。自分の罪から逃れるばかりでなく、罪深い仲間からも逃れました。そして祈りや、聖書を読むことや、罪に泣くことや、隣人に真実を言うことなどの宗教上の務めをしてみました。このような事や、その他ここでは話せないほど多くの事をやりました。

基督者 その時自分を満足に思いましたか。

有望者 ええ、一時はね。ですがついに私の悩みは再び私の上に、しかもすべての生活改善の真上に、転がり落ちて来たのです。

基督者 どうしてそういう事が起こったのでしょうか。あなたはもう心を改めていたのに。

有望者 それを引き起こした事はたくさんありましたが、とくに次のような事です。「われわれの正しい行ないは、ことごとく汚れた衣のようである」【イザ 64:6】とか、「人の義とされるのは律法の行ないによるのではない」【ガラ 2:16】とか、「命じられたことを皆してしまったとき、私たちはふつつかなしもべです、と言いなさい」【ルカ 17:10】とか、なお多くの事です。そこで私は自分に言って聞かせました、もし自分の義がことごとく汚れた衣のようであるならば、もし律法の行ない

によってはだれも義とせられないならば、また、すべてをなしたとき、なお無益なしもべであるならば、律法によって天国を考えることは愚かなことに過ぎないと。さらにこう考えました。人が店主に百ポンドの借金をした後、求める品を全部現金で支払ったとします。しかしこの古い借金が棒引にされないでまだ帳簿にあるならば、店主は彼を訴えて、借金を支払うまで牢屋に入れるかもしれない、と。

基督者 なるほど、それでどういうふうにご自身に当てはめましたか。

有望者 いや、次のように自分について考えました。私は自分の罪によって神の帳簿にだいぶ借金をした。今悔い改めても、その負債は払い切れないであろう。だから、現在行ないを改めてもなおこう考えるべきである、旧悪によって受ける危険のある天罰をどうしてまぬがれよう、と。

基督者 なかなかよい適用ぶりです。どうぞ続けて下さい。

有望者 最近私が悔い改めて以来、私を悩ますもう一つの事は、今自分の行ないの最もよいものを詳しく調べると、まだ罪、新しい罪が自分の最上の行ないにも混じっているのを見たのです。それで今は次のような結論を下さないわけにはいきません、自分自身と務めとについて以前は勝手な考えをしていましたが、たとえ昔の生活が非の打ちようもないものであったにせよ、ただ一つの務めにおいても、私は地獄へ送られるほどの罪を犯したのだと。

基督者 それからどうしました。

有望者 するもしないも、どうしてよいか分からなかったのですが、ついに信仰者に心を打ち明けました。彼とは知り合いの間柄でしたからね。すると彼が言うには、まだかつて罪を犯したことのない人の義を得るのでなければ、自分の義も、世界中のあらゆる義も自分を救うことはできないというのです。

基督者 彼の言うことは本当だと思いませんか。

有望者 私が自分の悔改めに満足していい気持になっていたとき、彼がそう言ったとしたら、その骨折りに対して彼をばかと呼んだでしょう。ところが今自分の欠点と、最も善い行ないにもついて離れない罪を見た以上、彼の言うとおりだと思わないわけにはいきませんでした。

基督者 ですが、最初彼が注意をうながしたとき、未だかつて罪を犯したことのないと言っても差支えないような人がいると思いませんか。

有望者 実を言うと、その言葉は最初は奇妙に聞こえましたが、彼となおも話し合い、付き合っているうちにそれを十分確信しました。

基督者 それでこの人はだれであるか、またどうしたら彼によって義とせられるかを尋ねましたか。

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい